
歪んだ月

華月 凜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歪んだ月

【Nコード】

N0729B

【作者名】

華月 凜

【あらすじ】

空に浮かぶ月はいつも歪んで見えていた…血を流す猫。猫は私だ…。I

（前書き）

次回作として連載する予定の「君と罰と私」に登場する主人公の過去の話を書いてみました
ぜひ、読んで下さい！

歪んだ月。

空に浮かぶ月はいつも歪んで見えていた…
それは私が傷だらけで 倒れているから…
きつとそうだ…。

家の庭はいつも冷たい。それに泥臭い。
それでも私はここから動く事ができない。

体中が痛い…
当然だよね…

お構いなしに蹴られて、壁にぶつけられて、家中引きずられて、この庭に落とされる…
まるで粗大ゴミだ。

何も言えない自分。
冷やかな目で見る両親。
空っぽな自分。

学校の帰り…
`友達`とかいうくだらないものがない私は一人で家に帰っていた。
た。

その途中の道、道路で信号が変わるのを待っていた。
フツと猫が私の横を通り過ぎた。
私の視線はいつの間にか猫に注がれていた…

猫が道路を渡った瞬間、車が猫を跳ねた。

猫は空に浮いて、落ちた

車は猫に気づく事なく、もう一度猫を轢いて行ってしまった。

猫は`ぐしゃ`という音と共に一歩も動く事がなかった。

血を流して、倒れていて潰れている。

まるでいつもの私みたいだ…

猫が自分の姿に重なる。両親もこんな風に私を見てるんだろう……
そんな事を思ったらなんだか笑えてきた…

バカみたい。

さっきまで生きていたのに、こんな一瞬でこの世界から消えてしまった。

だれが悲しんでくれるんだろう…仲間の猫？
くだらない…。

悲しんでくれたからってそれが何なんだろう…

もうどう足掻いても戻らないのに…

バカみたい。

私は両親に言われた言葉を思い出した。

`お前なんか、いらないんだよ！…あんななんか産まなきゃよかったよ！`

`お前は私達の汚点だ！`

この猫は私だ。

いつか私もこうなるのかもしれない…

中学受験に失敗した私。世間体を気にする事しか頭にない、両親。

何もかもくだらない…

くだらない世界…

私はすぐ近くにあった公園の水道で思いっきり吐いた。
喉が乾いて痛い。

「ちくしょっっっ！！！！！！！！」

私は泣いていた。

泣き叫んでいた。

降り出した雨が何もかも消していく…

私の涙も。

猫の血も…

f i n i

（後書き）

どうだったでしょうか？宜しければ感想 & a m p ; ご意見待ってます

次回作の「君と罰と私」も読んで頂ければ幸いです。
ありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0729b/>

歪んだ月

2010年10月15日21時16分発行